

日本都市計画学会 第2回全国大会 ワークショップ

「持続可能な地域づくり」の学習をどう支援するか  
— 高校での地理総合の必修化と都市計画専門家の役割 —

# 高校「地理総合」における生活圏学習の 取り組みと課題

2019年11月10日 (於 横浜市開港記念館1階講堂)



専修大学松戸高等学校教諭  
泉 貴久

[izumi.ta@isc.senshu-u.ac.jp](mailto:izumi.ta@isc.senshu-u.ac.jp)

# 本発表の目的

- ◆ 高校生段階における生活圏学習の方向性について提起する。
- ◆ 新科目「地理総合」の生活圏学習である大項目C「持続可能な地域づくりと私たち」の内容(2)「生活圏の調査と地域の展望」の学習指導要領上における位置づけについて示す。
- ◆ 生活圏学習の授業実践の取り組みについて示すとともに、授業実践の成果について明らかにする。
- ◆ 授業実践の成果を踏まえ、高校段階における生活圏学習の今後へ向けての課題について提起する。



# 本発表の流れ

1. 地理教育上における高校生の発達段階の特徴
2. 「地理総合」の目標
3. 「地理総合」における生活圏学習の位置づけ
4. 授業実践の実際
5. 授業実践の成果
6. 今後へ向けての課題



# 1. 地理教育上における高校生の発達段階の特徴

# 地理教育上における高校生の発達段階の特徴

- ◆ 「(高校生の地理的意識について) 社会的・政治的価値、民族、精神文化に強い関心を示し、国家・社会の背後にある諸関係、社会の構造、社会問題などに着目し、多面的・批判的に考えようとする傾向がある。」(山口2002)
- ◆ 「身近な地域をとりまく問題は、環境問題その他を巻き込んでますます複雑化してきており、そうした問題を主体的・批判的にとらえ、深く考察し、改善に向けた真摯な努力や提言、実践を行えるのは高校段階に入ってから。」(戸井田2002)。



# 地理教育上における高校生の発達段階の特徴

表1 市民的資質の育成を目指した小・中・高一貫地理教育カリキュラム試案

校種	発達段階に応じた学力の特徴	学習目標	学習内容
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>好奇心が旺盛で、楽しみながら知識の習得ができる。</li> <li>行動圏が拡大し、直接経験を伴った空間認識が発達する。</li> <li>メディア等を通じ、間接経験的な空間認識が発達し、世界像が拡大する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化との関わりを考慮に入れながら、ローカルからリージョナル、ナショナルなレベルに及ぶ地域認識の深化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市区町村の地誌学習（第3学年）</li> <li>都道府県の地誌学習（第4学年）</li> <li>自然環境や産業、防災を軸にした日本地誌学習（第5学年）</li> <li>グローバル化に関わる学習（第6学年）</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアや旅行等などを通じ、世界像の深化がみられる。</li> <li>抽象的思考が芽生え、探究過程を通じた様々な概念の獲得が可能となる。</li> <li>問題発見の場面を設定することで、社会の現状認識が可能となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識欲が持続していることを踏まえ、グローバルレベルにおける地域認識の深化を図る。</li> <li>地理的諸事象をナショナルスケールから考察することで、問題発見能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球的諸課題を軸にした世界地誌学習（第1学年）</li> <li>自然環境、人口、エネルギー、交通・通信などに関わる諸課題を軸にした日本地誌学習（第2学年）</li> </ul>
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的な思考力が身につくようになり、批判力も旺盛である。</li> <li>物事に対する客観的な分析・判断力が身につくようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>地理的な見方・考え方を駆使することで、グローバルからローカルまでの大小のスケールで発生する諸課題への問題解決能力を養う。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローカルからグローバルに至る様々なスケールで発生する現代的諸課題の学習（「地理総合」「地理探究」）</li> </ul>

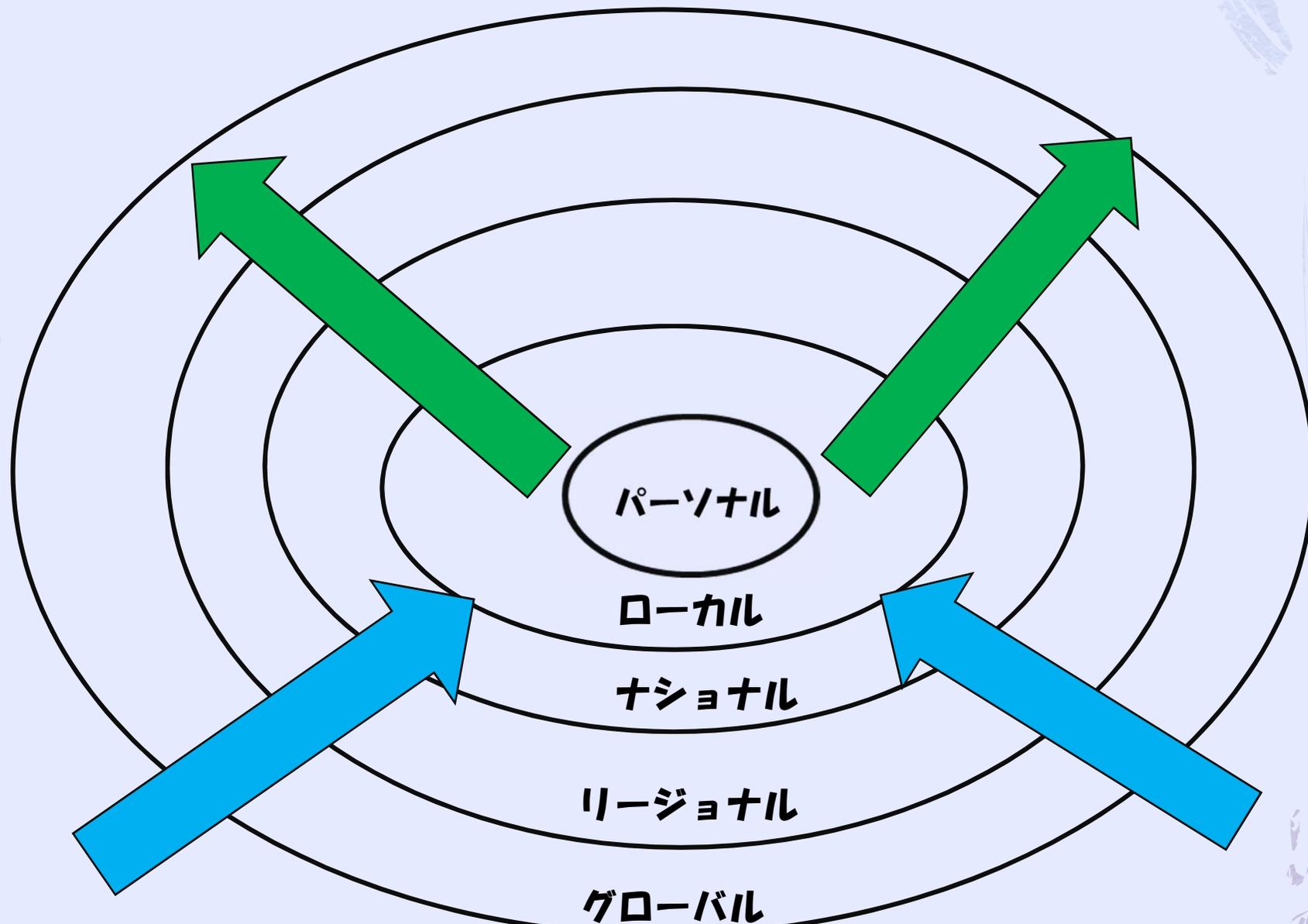


図1 個人が世界へ思いを馳せるとともに、世界から自分の足もとを振り返る  
(マルチスケールで地理的諸課題をとらえる力) 泉(2019a)より

# 地理教育上における高校生の発達段階の特徴

- ◆ 小学校段階は、体験を通じた社会への興味・関心の喚起と、必要とされる知識の獲得段階にあたる。
- ◆ 中学校段階は、小学校段階で培った国土認識の深化とともに、世界諸地域への興味・関心も高まってくる。また、知識の活用を通じて地理的な見方(考察力)を深め、地理的概念を獲得する段階にあたる。
- ◆ 高校段階は、地理的概念を基盤に、地理的な考え方(構想力)を駆使しながら問題解決のプロセスを通して社会参加へと向かっていく段階にあたる。



- ◆ 高校地理教育は、現代的諸課題を学習課題として取り上げるとともに、その解決に向けて探究プロセスを駆使することで、地域性を踏まえた価値判断、意思決定、社会形成の諸能力の育成を促し、小・中・高と培ってきた社会認識と市民的資質の完成をめざすことが求められる。
- ◆ 現代的課題を解決する力を育むには成人年齢に近い高校生が発達段階上最も相応しいものと考ええる。
- ◆ **社会参加へ向けた資質・能力を育むためには、学校や居住地周辺などの生活圏で生じる諸課題を学習対象とすることで、生徒たちはより具体性をもって学習に臨むことができるものと考ええる。**
- ◆ 18歳選挙権により高校生の社会参画が叫ばれるなか、大項目Cの中項目(2)の学習のあり方について検討することは、地理教育の社会的有用性を考える上でも大きな意義をもつものといえる。

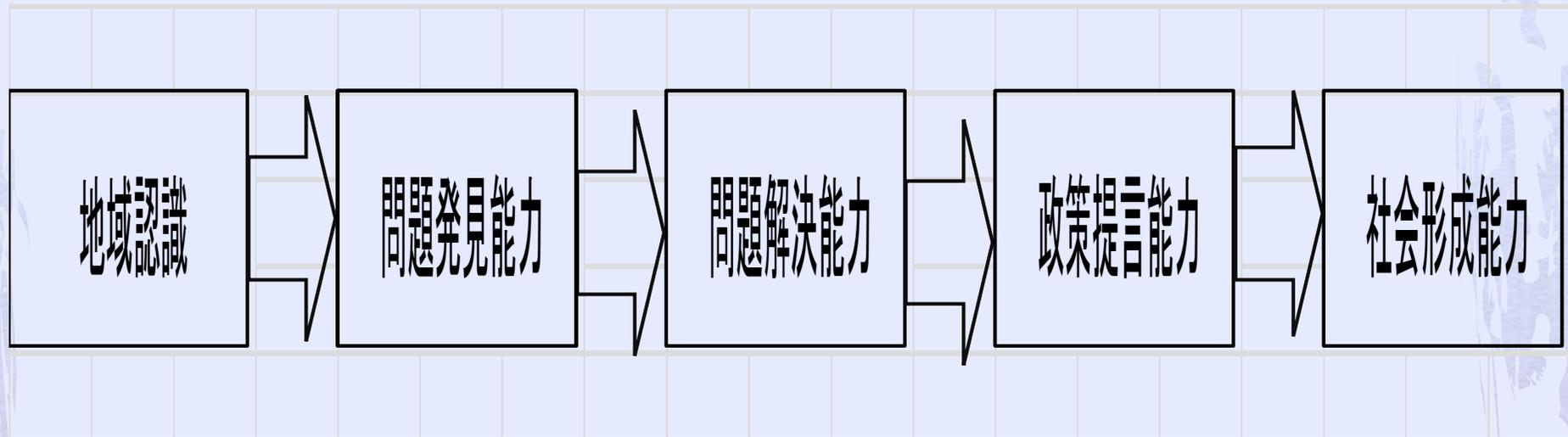


図2 現代的諸課題の探究を踏まえた社会参加へと至るプロセス  
泉(2018b)より

## 2. 「地理総合」の目標

# 「地理総合」の学習目標

- ◆ 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の有為な形成者の育成。
- ◆ **ESD**の一翼を担う科目として、①地図や**GIS**の活用などの地理的技能の習得、②地球的諸課題と生活圏の諸課題への対応、③諸課題の解決を通じた持続可能な地域社会の形成が大きな柱となっている。



# 「社会に開かれた教育課程」の実現

- ◆ 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標に沿うべく、「学校と社会との連携・協働」を意味するとともに、「社会の現状を知るための学び」から「社会と自分との接点を見出し、社会のあり方や自身の生き方について考えていくための学び」への転換を意味している。
- ◆ 「地理総合」も同様、科目としての特質から鑑みて、生徒たちが授業を通して社会と自身とのつながりを意識することで、社会参加へ向けてのきっかけづくりができる科目として位置づけられる。



### 3. 「地理総合」における生活圏学習の位置づけ

# 「地理総合」における生活圏学習の位置づけ

- ◆ 中項目(2)は、生徒たちにとって身近な空間である学校周辺地域等の生活圏が学習対象となっていることから、自身と社会との接点を見出すことが容易。
- ◆ 「生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する」「生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察・構想し、表現する」という2つのねらいを有する。
- ◆ 授業づくりにあたっては、地域認識から社会参加に至る探究プロセスとそれに相応しい「学習課題(主題)」の設定とともに、適切な「問い」を中心に学習活動が組織され、「対話的、主体的で深い学び」を促す学習が展開される必要がある。



# 求められる「地域に開かれた地理授業実践」

- ◆ 高等学校地理における社会に開かれた学び→「持続可能な社会づくりに必須となる地球規模の諸課題や地域課題を解決する力を育む科目」としての必修科目「地理総合」の位置づけ。
- ◆ 大項目「C 持続可能な地域づくりと私たち」の中項目「(2)生活圏の調査と地域の展望」に代表される社会参画を意識した内容構成。
- ◆ 探究活動を伴う「対話的・主体的で深い学び」を重視。
- ◆ 学習者の市民性育成を念頭に「地域に開かれた授業実践」が求められている。



## 「地域に開かれた地理授業実践」で育成すべき資質・能力

- ◆ 地理学習における3つの資質・能力(知識・技能, 思考・判断・表現等, 学びに向かう力・人間性等)を育成するための視点や方法→「地理的な見方・考え方」として位置づけ。
- ◆ 「地理的な見方・考え方」→「社会的事象を, 位置や空間的な広がりに着目して捉え, 地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で, 人間の営みと関連付けること」と定義。
- ◆ 「地理に関わる諸事象を地域等の枠組みの中で多面的・多角的に考察する力(考察力)」と「持続可能な社会の構築のためにそこで生起する課題の解決に向けて, 複数の立場や意見を踏まえて構想する力(構想力)」の2つの能力を地理的な見方・考え方をベースに育成→「地域に開かれた地理授業実践」において育成すべき資質・能力



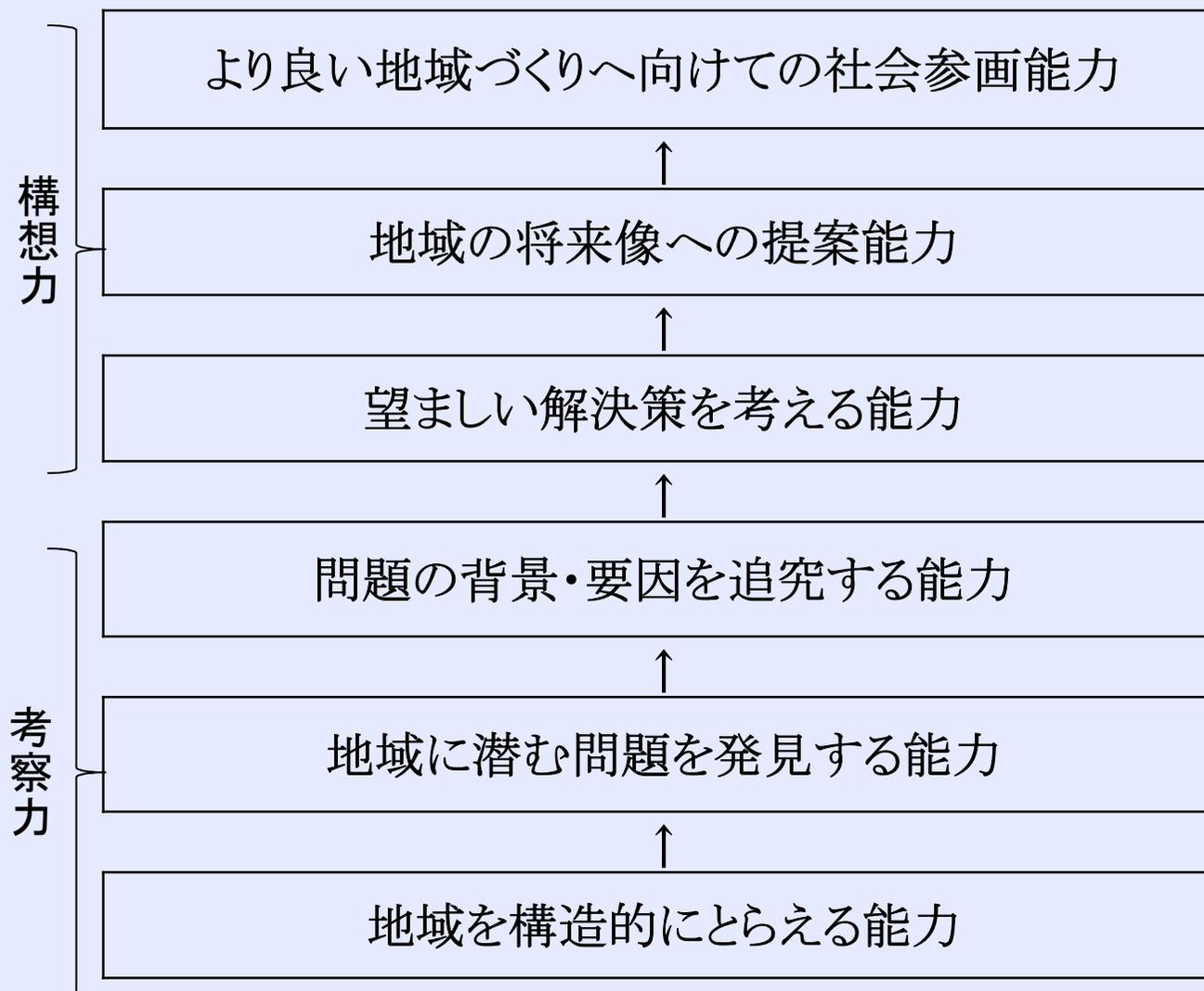


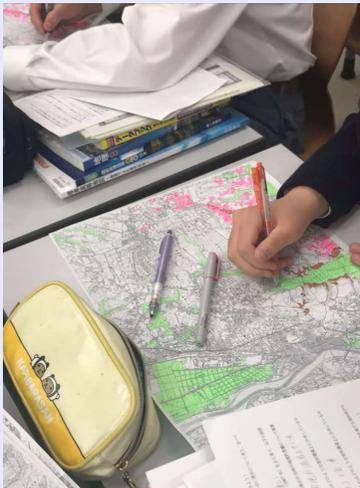
図2 地理教育における社会参加へ向けて必要とされる能力&探究プロセス  
泉(2014)より作成

# 地理的な見方・考え方をベースにした2段階の 探究型学習プロセス(泉2018b)

## 考察力

地理学の5つの概念(「位置と分布」「場所」「人間と自然との相互作用」「空間的相互依存作用」「地域」)を駆使しながら、地理的諸事象の多面的・多角的な考察を通じてその規則性・法則性を追究し、そこから地理的概念や地理的課題を見出す力と合致→「位置や空間的な広がりに着目して捉える地理的な見方から課題を把握」(永田ほか2017)することと同義であり、社会科教育の文脈でいうならば、社会認識に相当するもので、基本的には、以下のプロセスをたどる。

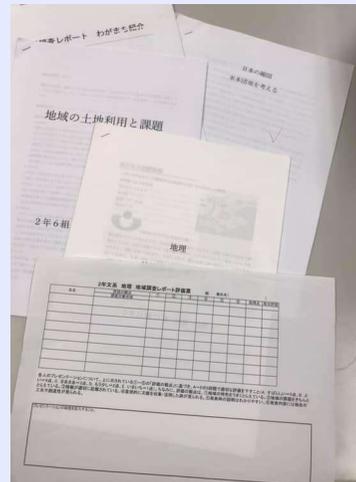
- ①地図から分布の特徴を読み取る。
- ②分布の特徴から地理的事象の空間的規則性・法則性をとらえる。
- ③空間的規則性・法則性から地理的概念を見出す。
- ④空間的規則性・法則性から地理的諸課題を発見する。



# 地理的な見方・考え方をベースにした2段階の 探究型学習プロセス(泉2018b) 構想力

様々な観点を考慮に入れながら課題解決策を構想し、持続可能な社会の形成へと至る、政策提言、社会参加を指向する能力と合致→「地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組の中で、人間の営みと関連付ける地理的な考え方から課題を追究し、様々な視点を踏まえて解決に向けた判断を行う」(永田ほか2017)ことと同義であり、社会科教育の文脈でいうならば、市民的資質に相当するもので、基本的には、以下のプロセスをたどる。

- ⑤地理的諸課題の現状を多面的・多角的にとらえる。
- ⑥諸課題をもたらす背景・要因を様々な角度から追究する。
- ⑦複数の選択肢の中から望ましい解決策を吟味する。
- ⑧複数の選択肢の中から望ましい解決策を選択する。
- ⑨持続可能な社会の実現に向けてのプランを具体的に描く。
- ⑩描いたプランを実現させるために直接的・間接的に社会に働きかける。



## 4. 授業実践の実際

# 単元「足もとから考える地域の課題—松戸市への政策提言—」

- ◆ 「松戸市の地理的・歴史的特性」「学校周辺地域のフィールドワーク」「学校周辺地域における諸課題を考える」「持続可能な地域づくりを模索する」「地域政策への提言」の5つの学習課題から構成。
- ◆ 「市民性育成へ向けた10段階の探究プロセス」を踏まえながら、学校周辺地域を新旧の地形図作業と野外観察で地域認識を培い、地域の抱える課題の解決、政策提言を通して、社会参加を目指すという内容構成。
- ◆ 2019年6月21日～8月27日(間に夏季休暇をはさむ)に高校2年地理B(文系履修者7名)で実施。

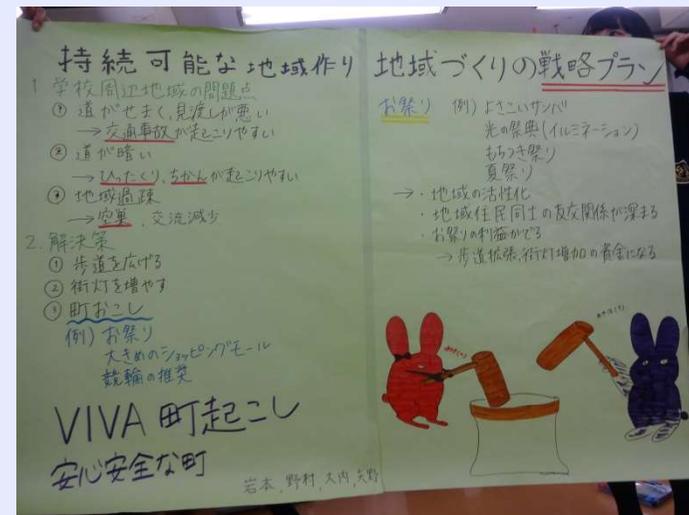
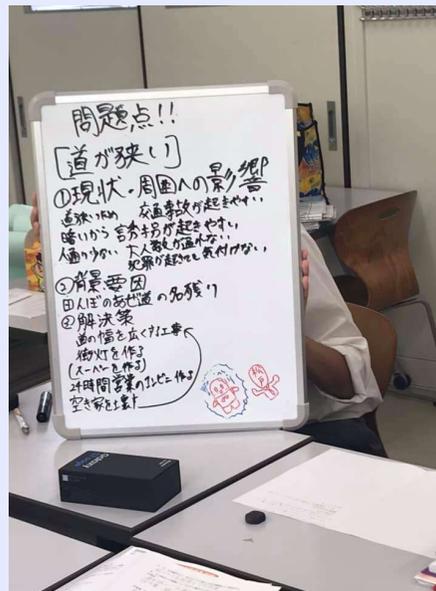


表2 千葉県松戸市を事例にした身近な地域調査学習のプラン  
 学習テーマ：「足もとから考える地域の課題—松戸市への政策提言—」（全13時間）

単 元 目 標	① 松戸市の概観について地形図などの読図や景観観察を通じて、地理的・歴史的観点から理解を深める(知識・技能)。 ② 松戸市が抱える諸課題について理解を深めるとともに、その解決策について多面的な視点から考察する。(思考・判断・表現等) ③ 持続可能な地域社会の実現へ向けて何ができるのかを考える(学びに向かう力・人間性等)。			
学習内容	配当時間	学習活動	地理的概念	探究プロセス
松戸市の地理的・歴史的特性	2時間	・2万5千分の1新旧地形図や統計資料を活用した作業課題を通じて、明治期から現代に至る松戸市の地域の変遷について考察し、理解を深める。	・位置と分布 ・場所 ・人間と自然との相互作用 ・地域	① ②
学校周辺地域のフィールドワーク	2時間	・2千5百分の1地形図をもとに学校周辺地域の概要を把握した後、野外観察を行い、地域の特性を自然環境・社会環境の両面から理解する。 ・野外観察の成果を踏まえて、地域の抱える課題について発見する。	・位置と分布 ・場所 ・人間と自然との相互作用 ・地域	① ② ③ ④
学校周辺地域における諸課題を考える	3時間	・クラスを複数の班に分け、グループごとに学校周辺地域の特性について良い点・悪い点に分け、地域が抱える社会的諸課題の背景・要因について野外観察の結果をもとに調査を行う。 ・調査結果を踏まえて、学校周辺地域を中心とした松戸市の抱えている社会的諸課題をグループごとに抽出する。 ・課題もたらす背景・要因、周囲への影響を考え、解決策を吟味し、提案する。	・人間と自然との相互作用 ・空間的相互依存作用 ・地域	⑤ ⑥ ⑦ ⑧
持続可能な地域づくりを模索する	4時間	・各グループが提案した課題の解決策を踏まえ、持続可能な地域とは何かを考え、理想的な地域像とそれを象徴するコンセプトをグループごとに提案する。 ・各グループが提案したコンセプトに基づき、持続可能な地域づくりの実現へ向けての段階的な戦略プラン立案する。 ・各グループが立案した戦略プランを全体に発表し、クラス全体で共有する。	・人間と自然との相互作用 ・空間的相互依存作用 ・地域	⑨ ⑩
地域政策への提言	2時間	・居住地周辺地域におけるレポートの作成とその成果の発表、生徒間での相互評価を通じて、生徒各自が地域づくりにどのように関わっていくのかを具体的にまとめる。	・地域	⑩

# 地域学習に関するアンケート結果

1. 本校所在地域である松戸市に対して持っているイメージ  
坂が多い, 道が狭い, 緑が多い, 治安が悪い, 梨が有名, 柏や市川に比べて田舎, 交通の便が良い, 住宅街, 東京に近い, 面積が広い

2. 本校周辺地域に対して持っているイメージ

北松戸側は坂が多い, 段々に家がある, 住宅地, 治安が悪い, 松戸新田側は平坦な地形, スーパーがない, のどか

3. 中学生時に社会科の授業で地形図や地理院地図を活用した授業を受けた経験の有無

はい:2名(地形、貝塚、遺跡について勉強した), いいえ:5名

4. 中学生時に社会科の授業で学校周辺地域へ出てフィールドワークを伴った授業を受けた経験の有無

はい:2名(重要な地点を見て回った), いいえ:5名

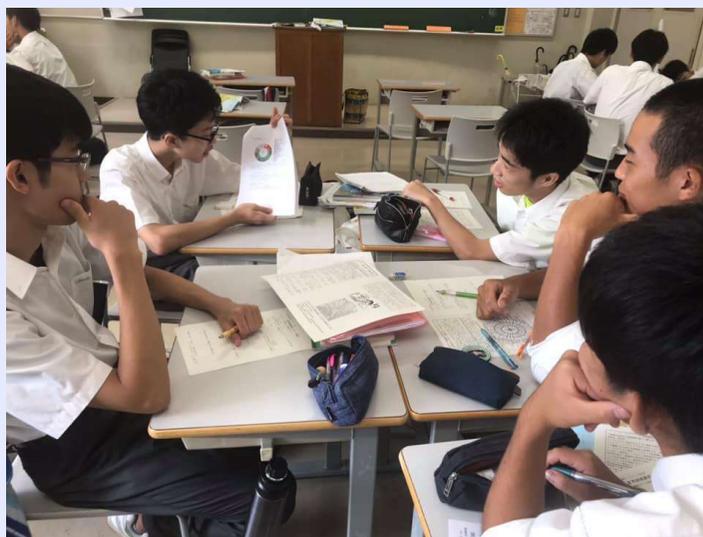
# 授業実践の実際

## 「松戸市の地理的・歴史的特性」の場合

### 【学習のねらい】

松戸市を事例に一定の規則に従った地形図の読図方法を身につけるとともに、それを通じて以下の能力等を獲得する。

- ① 地名や土地利用の読み取りを通じた松戸市の地理的特性。
- ② 終戦直後から高度経済期を経て現在に至る松戸市の変遷とそれをもたらす社会的背景についての理解。
- ③ 高度経済成長期以降の都市の発達過程とその問題点についての気づき。
- ④ 方位や距離、位置などの地理的概念。
- ⑤ 環境的相互作用、持続的開発などの地理的概念。



# 授業実践の実際

## 「松戸市の地理的・歴史的特性」の場合

### 【生徒たちのコメント】

- ◆ 昔の地図と比べると、専松周辺を歩いていて想像してはいたけど、昔の地図を見てもともと水田だったり、専松ができた当時の生徒とかは今とははるかにきつい坂だったり、今より自然があったから登校が大変だったんだなあと思った。松戸周辺は谷や尾根が多く、その形を今でも見て気づけるから、それを生かした建物をつくっているのはすごいと思った。
- ◆ 地名にはその地域の昔の環境や土地利用などに由来している場合が多いということがわかった。昔の地図を色分けすると、田園地帯が大部分を占めているということがわかった。
- ◆ 水田のある所に色を塗ってみて、水田がきれいに低地に配置されていて面白いと思った。土地の名前の付け方は地形や水田、飛行場などに由来していて興味深いと思ったので、自分が住んでいる地域の地名の由来も調べてみたいと思った。
- ◆ 昔の地形図と今の地形図を見比べることで、昔の地図で空白だった場所に何があったかだいたいわかったり、どういう土地利用をしていたかがよくわかった。あと、松戸からどういう働きをしている街かを知ることができた。さらに、住宅街、畑などの区別があまりされていなかったことがわかった。
- ◆ 今までの授業で地形のことで学ぶことができて、今回の学習で松戸周辺について知ることができたので、地理をより身近に感じることができた。井戸の話が印象に残っている。江戸川を境にして、東西で地形と土地利用の違い、それにも理由があると知って、当時の人の考えが見えたのがとても面白かった。
- ◆ 1種類だけではなく、年代別に地図を見比べることで、わかることが沢山見えた。現代の地図は表示が細かく、細い道や住宅の情報が多いが、昔の地図を見ることで、当時の土地利用や時代の流れに合わせて表記が変わっているのは興味深かった。地形に基づいて地名ができるのは、自分の住んでいる所にも深い関わりがあるので面白かった。
- ◆ 様々な時代に作られた地図を見比べることで、松戸の発展の様子を見ることができて面白かった。低地に家が建てる理由など、全てに理由があって、街が作られていて、歴史の重さを感じたし、それが現代までつながっていることも地図上でわかることがすごいと思った。また、地名にもそのような傾向が見れて面白かった。地元でもやってみたいので、夏が楽しみです。

# 授業実践の実際

「学校周辺地域のフィールドワーク」の場合  
【学習のねらい】

景観観察や読図、作図、記録の作成といったフィールドワークの手法を身につけるとともに、それを通じて以下の能力等を獲得する。

- ① 地理的諸事象を地図と照らし合わせながら直接観察する能力。
- ② 地理的諸事象相互の関係性を見いだす能力。
- ③ 学校周辺地域への理解。
- ④ 環境と人間の相互作用、持続的開発などの地理的概念。
- ⑤ 学校周辺地域の抱える諸課題の一端への気づき。



# 授業実践の実際

## 「学校周辺地域のフィールドワーク」の場合

### 【生徒たちのコメント】

- ◆ 生産緑地のある理由だったり、規定があるのを知れたことは良かった。稲荷が奉られている屋敷神は家にあるところは近くにたくさんあるけど、それがあっていうところはそこに田んぼが今はなくても、昔はここは田んぼだったんじゃないかなあと家の近くでも想像できた。
- ◆ 今回実際にフィールドワークに出てみて、自分の身近な地域にも教科書で見るような地形がかなり見られることに驚きました。
- ◆ 畑がある所が少し高い位置にあったり、台地の斜面の家が階段状に工夫して建てられていたりして、土地利用が便利のように上手くなされていて面白いと思った。フィールドワークをしてみて、名字や地名の由来、土地利用などについて今まで気づけなかった視点で見ることができて良かった。
- ◆ 自分の住んでいる街と違って公園が少なく、住宅街が中心で松戸は授業でやった通り東京のベッドタウンなんだということを実感しました。あと等高線が密集している所を実際に見て、こんなに高低差があったのかと思いました。
- ◆ 専松の近くにも湧水や崖下の宅地などが見られて、地理の実感ができた。神社の近くの竹林が美しくて印象的だった。人生は地理だった。
- ◆ 地図を見ただけではわからないことが、実際に歩いてみたらわかった。普段何気なく通っている道も、注目して見ると、地形の由縁やその住人が何を思って土地利用していたのかが見えて面白かった。また、昔からの土地利用もあれば、現代社会に対し、この町がどのような考え方で接しているのかが、ポスターや掲示板、生産緑地などから何うことができた。
- ◆ 地図を通じて知れることもたくさんあったが、さらにそれに現実を重ねることで、気づくことが多くあり、すごく楽しかった。水たまり、のぼりや掲示板など、普段何気なく見ているものも、いろいろなヒントになるし、生産緑地など緑を残していこうという意志を見られて、気づかないうちに様々な地理的要素を見逃していることに気づくことができた。地理的視点でいろいろなことを見れるようになりたい。

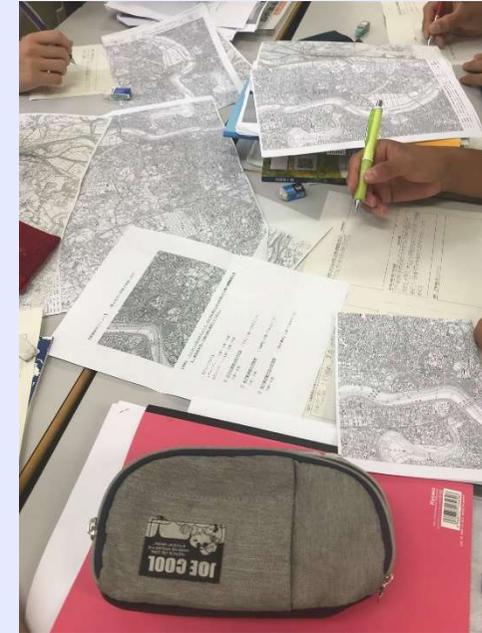
# 授業実践の実際

## 「学校周辺地域における諸課題を考える」の場合

### 【学習のねらい】

フィールドワークの成果を踏まえた学校周辺地域の抱える諸課題について把握し、解決策について考える。

- ① グループごとに学校周辺地域の特性について良い点・悪い点に分けてまとめ、そこから課題を抽出し、地図化し、その特徴について考察する。
- ② グループごとに課題をもたらした背景・要因、周囲への影響を考え、解決策を提案する。



# 授業実践の実際

「学校周辺地域における諸課題を考える」の場合

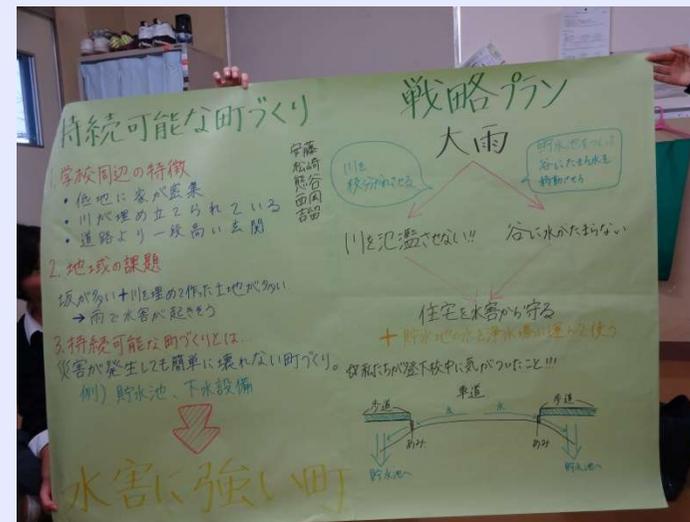
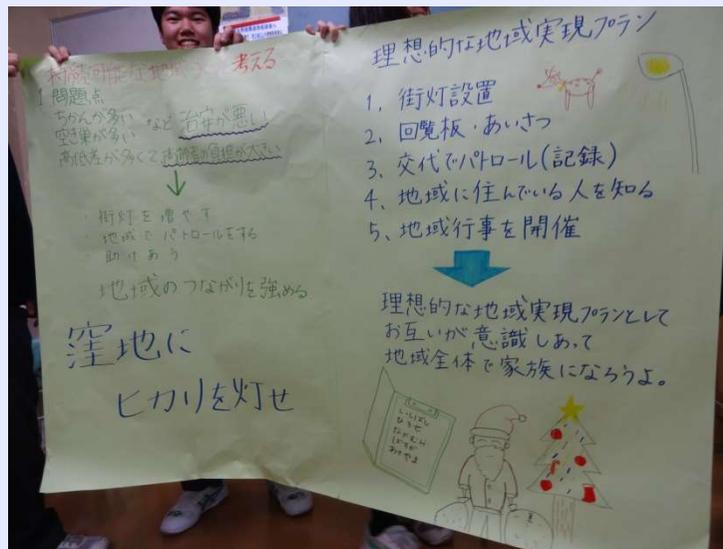
【生徒たちのコメント】

- ◆ 中学の時のフィールドワークと違って、地形とかから周辺地域の現状や影響を考えたりするのが面白かった。いつも何も考えずに登校しているけれども、大人数が通れない道とかは確かになあと思った。
- ◆ 地形の特徴によって、様々な問題が起きることがわかった。気がついたことを大きな地図にまとめることで、今回歩いた狭い地区の中でも多くの改善点が見つかった。今回のフィールドワークで実際に自分の目で確認してみることはとても貴重な体験だと思った。また、地形からどういった経緯でその問題が起きたのか、グループで深めることでよくわかった。
- ◆ フィールドワークをすることで、地域の課題を地域住民の視点で考えることができた。グループで意見を交換し合うことで、駐車場の無い通りは道が狭いことや、未知の狭いところは灯りが少ないことなどの自分では気づけなかった課題にたくさん気づくことができ、地理では意見交換をすることは大事だと思った。課題を考えてみて、自分が住んでいる地域と共通する課題が結構たくさんあるなと思った。
- ◆ 地域の特徴がこんなにも今の現状に関わっていることがよくわかった。あと、どういう道があるかによって、どういう課題があるかや、どういう犯罪が起きそうか予想できるなと思った。2つのグループを比べると、かなり一致している部分があるなというのを感じた。
- ◆ フィールドワークをただけでも、松戸市について知ることができたが、こうして地図に落としてみると、視覚的に松戸市の現状を知ることができた。付箋を使うことで、色の違いから情報を得ることができて、とてもわかりやすかった。
- ◆ フィールドワークで気づいたことを思い出しながら地図に落とし込むことで、共通点や方位によって違った土地利用を見つけることができた。また、それによって新たな課題を発見し、対策を考えることで、地域がどのような問題を抱えているのか、どういった経緯でそういう状況になってしまったのかがわかった。
- ◆ 今まで地域の問題点を考えるという内容は中学の時にやったことがあったが、こうやって実際に歩いてみた上で、現状→要因→影響→解決策と順を追って1つ1つ丁寧に見たことはなかったので、細かく考えることができ、面白かった。いろいろな要因が重なり合って今の現状ができていると思うし、解決策もいくつかの問題と同時に解決することができるので、良い意味でも悪い意味でも行動や意見が与える影響に気を配らなければいけないと思った。

# 授業実践の実際

「持続可能な地域づくりを考える」の場合  
【学習のねらい】

- ① 自分たちのグループが提案した課題の解決策を踏まえ、持続可能な地域について定義する。
- ② 自分たちの定義した持続可能な地域を象徴するコンセプトを3つ提示する。
- ③ 持続可能な地域づくりの実現へ向けての段階的な戦略プラン立案する。



# 授業実践の実際

## 「持続可能な地域づくりを考える」の場合

### 【生徒たちのコメント】

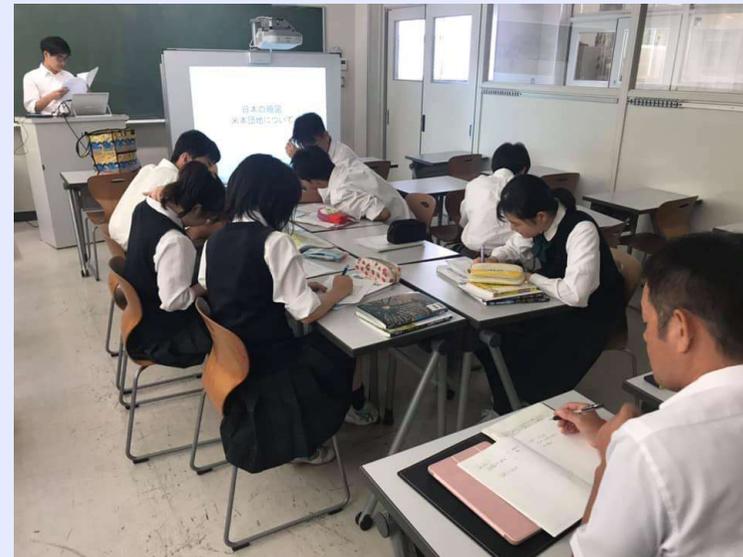
- ◆ 地図に写してわかった問題をグループで挙げて解決策を踏まえて持続可能な社会を考えるというのが解決策を考えるのはわかりやすかったけれども、持続可能な社会というのが何をもって持続可能なのかを考えるのが難しかった。持続可能な社会というのは、その地球が一番問題になっているものを解決するのが持続可能につながる訳ではないんだなとわかった。
- ◆ 持続可能な地域づくりをするためには、外部の人たちの意見よりも、地域住民の人々の意見を得ることが必要だと思った。そのために、住民アンケートなど、直接住民の言葉を知ることができる活動が最適だと思った。
- ◆ 持続可能な地域づくりのために、戦略プランを考えてみて、市役所の人のようなことをして楽しかったが、市役所の方は住民の意見を取り入れながら、考えていかなければいけないので、大変だなと思った。人生で一番地域について考えた時間だった。今回の授業を生かして、夏休みの課題に取り組みたい。
- ◆ 今まで持続可能な社会とはどういうものかはずっと教科書に書いてあるもので、自分で考えるなんてしてこなかったけど、自分で考えてみると、さらに深い部分までわかった気がした。あと、持続可能な社会を自分たちで定義することによって、地図の見方などが変わって見えた。
- ◆ フィールドワークで分かったことを生かして、地図に落として課題を見つけるという作業をした。「持続可能な社会は大事だ」というのは中学生の時に勉強したが、どんな地域が持続可能な社会なのかを具体的に考えてみると、実現するのは難しい面があるように思えた。自分たちが市の職員だとして～、と完全策を考えるのが楽しかった。
- ◆ もともとマーケティングに興味があり、モノや人の商品価値や販売経路、具体的な戦略プランを立てるのが好きなので、実際にフィールドワークをして、手に入れた情報をもとに段階的なプランを考えるのはとても楽しかった。ただ、自分一人でやるのではなく、今回のようなグループワークの場合、自分の意見も交えつつ、チーム全体として結論を出すのは難しく、連携や役割分担も工夫次第で発表の質に関わってくるなと感じた。全然発表の時間が足りなくて、工夫した点が発表できなかったのは惜しい。
- ◆ 1つのことをやろうとしても、次から次に問題が出てきて、難しかったし、実際やるとしたらお金はどこから出るんだろうとか、需要とかも考えないといけないし、単純にできる話ではないのだと思った。その分、多くの人がいって、まちができていくということも再認識できた。

# 授業実践の実際

「地域政策への提言」の場合

【学習のねらい】

- ① 居住地を対象としたレポートの作成からプレゼンテーションに至るまでの一連の学習を通じて、居住地における理解を深めるとともに、自らテーマを設定し、関連資料を収集し、それを多方面から分析・解釈することで、自分なりに結論をまとめ、皆の前で発表するという地域調査の手法を習得する。
- ② 各自のプレゼンについて、生徒たちどうしの相互評価を、5つの観点(①地域の特色の適切な把握、②情報の適切な記載、③意欲的な文献収集・活用、④発表のわかりやすさ、⑤発表内容の独自の工夫・創造性)に基づいて5段階(Aすばらしい、Bよい、Cまあまあ、Dもう少し、Eいまいち)で行う。



# 授業実践の実際

「地域政策への提言」の場合

【生徒たちのコメント】

- ◆ 自分の地域をまた知れるきっかけになった。自分の地域と同じような問題を抱えている所もあった。
- ◆ 自分が住む街にしか持ちえない特色や問題をもっと見つけて掘り下げるべきだと思った。何もないと思っていた住まいにも問題が存在することがわかった。クイズなどを使って問いかけることで、聴き手を引き込む所がすごいと思った。
- ◆ 様々な地域のプレゼンテーションを聴いて、それぞれの地域の魅力が伝わってきた。課題については、自分の住んでいる地域と共通するものがあり、他の発表を見て、もう少し多く写真を使えば良かったと思った。
- ◆ 皆わかりやすくまとめていたので、地域の共通点や違う点がわかりやすかった。
- ◆ プレゼンをしている時は感じなかったけれど、全員が違う課題を取り上げたことが凄いと思う。全員が違う課題を取り上げたということは、それぞれの地域に独自の課題があったという意味だから、ある意味面白かった。
- ◆ 千葉や東京などあまり離れた場所に暮らしている訳ではないのに、抱えている課題は様々で興味深かった。メンバーの着眼点に1学区にフィールドワークをした後の課題対策学習が生かされていて、こういうアクティブラーニングは様々な分野で活用できると感じた。
- ◆ 住んでいる場所によって問題とされていることが違い、近い地域での差を見ることができ面白かった。人によってパワポの作り方も注目するところもすごく個性が出ていると思った。自分の市も、その周りの市もまだまだ知らないことがたくさんあるのだと感じた。

## 5. 授業実践の成果

# 授業実践の成果

## 「松戸市の地理的・歴史的特性」の場合

### 【授業実践の成果】

- ◆ 学校周辺を含む松戸市の地域的特性について地名や地形，土地利用などを切り口に理解を深めるとともに，地域の歴史的変遷過程とそれをもたらした社会的背景，さらには，それによって生じた諸課題への指摘を感想文より読み取ることができた。
- ◆ 地形と土地利用との関係から先人の生活の知恵についての共感とそれを未来へと受け継いでいくことの大切さについても垣間見ることができ，そこから「自然と人間活動」という地理的概念はもとより，「環境的相互作用と持続的発展」「生活の質」「将来世代のニーズと権利」といったESDの概念も浮かび上がってきた。

# 授業実践の成果

「学校周辺地域のフィールドワーク」の場合

## 【授業実践の成果】

- ◆ フィールドワークを通して普段何気なく見過ごしてきた学校周辺の景観に新たな価値を見出している様子を伺うことができる。
- ◆ 「身近な地域の再発見」、さらには、これまで通い慣れた学校周辺地域に対する「新たな興味・関心の喚起」へとつながっていく。
- ◆ リアリティをもって学校周辺地域をとらえており、また、地理的諸事象を互いに結びつけることにより、地理的概念や地理的課題への気づきも見られ、地域への総合的理解とともに地理的な見方・考え方を読み取ることができる。

# 授業実践の成果

## 「学校周辺地域における諸課題を考える」の場合

### 【授業実践の成果】

- ◆ 諸課題を地図化することによって、その発生要因を地理的環境との関わりから、かつ空間的な視点からとらえることができるようになっている。
- ◆ 生徒どうしの意見交換を通じて、より広い視点から諸課題の現状と背景・要因をとらえることができるようになっている。
- ◆ 諸課題解決へ向けての探究プロセスの重要性に気づいている。

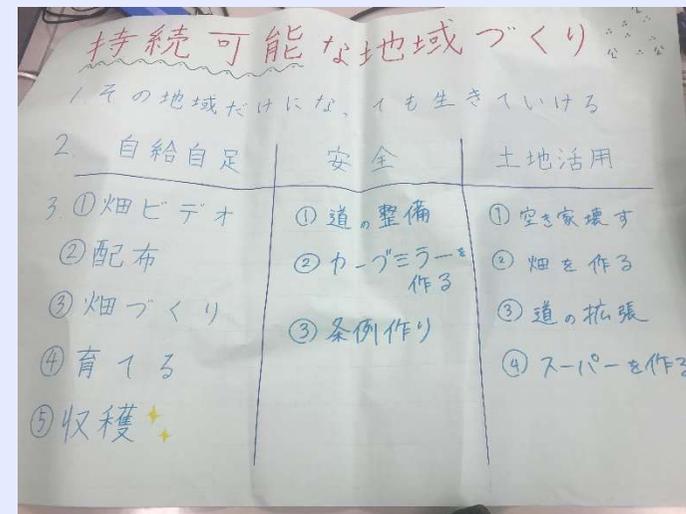
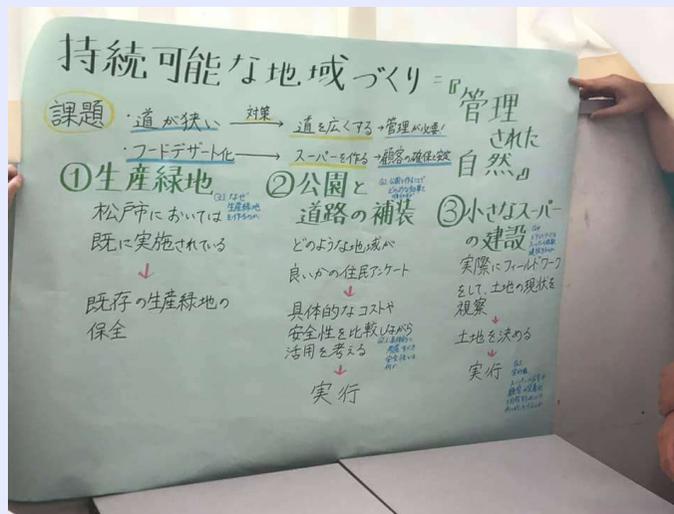


# 授業実践の成果

「持続可能な地域づくりを考える」の場合

## 【授業実践の成果】

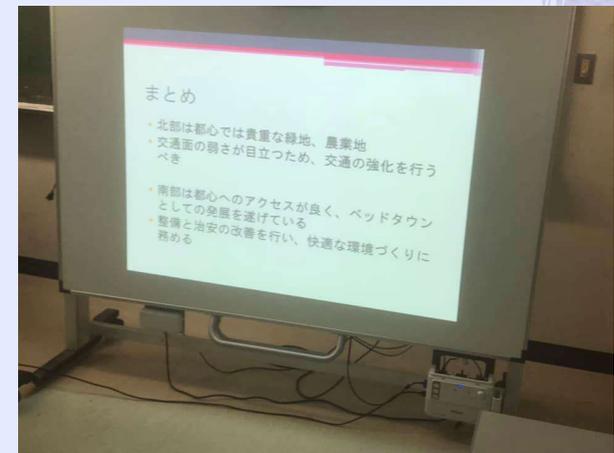
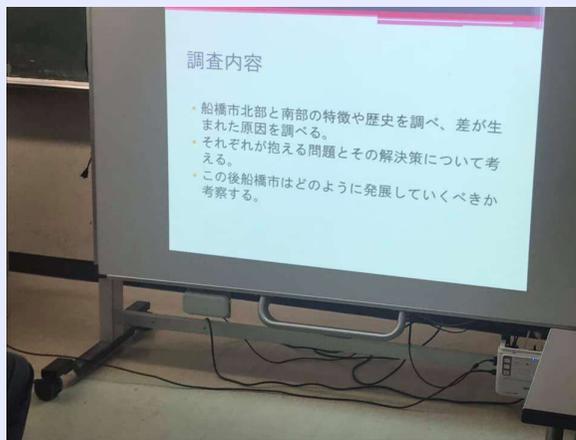
- ◆ 持続可能な意味をとらえた上で、地域づくりへ向けての政策提言を行うことの難しさを実感していた。
- ◆ 生徒間での異なる意見を調整していくことの難しさを実感していた。
- ◆ 地域づくりへ向けての戦略プランを立てることの面白さに気づくとともに、そのプランを意見調整しながら立案していく行政の立場について推し量ることができている。



# 授業実践の成果

## 「地域政策への提言」の場合 【授業実践の成果】

- ◆ 自分自身の居住している地域の地理的特性や地理的課題について理解を深めている。
- ◆ 自地域と他地域とを比較しながら、地理的特性や地理的課題の共通点・相違点について理解を深めている。
- ◆ 地理的特性によって生じる課題が異なることを認識している。
- ◆ レポート作成、プレゼンテーション、相互評価の一連の学習を通して、「対話的、主体的な深い学び」そのものに意義を見出していた。

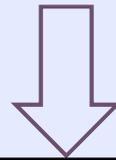


# 総括コメント

- ◆ 自分の地域での問題点はわかっているテレビ等で堤防が決壊したとかを聞くと、解決法はこれが良いんじゃないかなあと思っていたものも、区役所の方に聞くと、景観とか防災面での解決法は合っているかもしれないが、全てはそう上手くいかない、他に問題があるのもわかったから良かった。
- ◆ 地域を調査することで、普段何気なく見ていたものにも課題があって、地域とじっくり向き合う機会を持った。
- ◆ 少子高齢化や多文化理解などの国の問題なんて自分には関係ないだろうと思っていたけど、他の人の発表や自分の調べた米本団地を通して思っていたより身近な場所で、そういう問題が深刻化していたので、自分もそういう問題を真剣に考えようと思った。
- ◆ 今回は地理の宿題に費やす時間が少なかったこともあり、情報を収集する機会が少なかったが、新松戸特有の新松戸祭りや、前々から課題だなと思っていた信号機の問題に触れることができて良かった。
- ◆ こんなに1つのテーマについてフィールドワークして、写真を撮って、地理的事象について考え、パワーポイントで発表するというのは初めてだったので、こんなに授業でワクワクしたのも初めてでした。座学よりもこうやって積極的に意見が交わされる授業の方が、自分の経験として次に似たような調査や発表をする時に活かせるだろうと思います。
- ◆ 船橋を調べると決めた時にすごく悩んで、どうすれば面白いレポートになるかと考えた時に自分の実体験からやってみようと思えたのが大きかったと思う。今までは自分の市に自信を持つことは少なかったし、ましてや北部に住んでいるので、良いと思うことは何度もあったが、今回調べることによってすごく船橋に誇りを持てるようになった。しかし、南部の治安の悪さも数字で見ることでやっと気づけたので、より良い街を目指して市全体で動いていけたらと思う。

# 総括コメント

- ◆ 生徒たちは、学校周辺や自らの居住地域が抱える問題と自身との関係性について再認識するとともに、問題を解決することの難しさについても理解しているように思われる。
- ◆ 同時に、問題に向き合うとともに、それに主体的に関わっていかこうとする姿勢を垣間見ることができる。また、調査や発表といった「対話的、主体的で深い学び」を体験していることへの充実感を読みとることができる。
- ◆ 以上の点から、生徒たちは「考察力」と「構想力」の育成を重視した生活圏学習の成果が表れているとともに、生活圏学習そのものを肯定的にとらえていることが理解できる。



「科学的認識と総合的な見地に立脚した社会参画を見据えた課題解決型の地理教育」(泉, 2019b)の確立へ向けた示唆に富む意見が見られた。

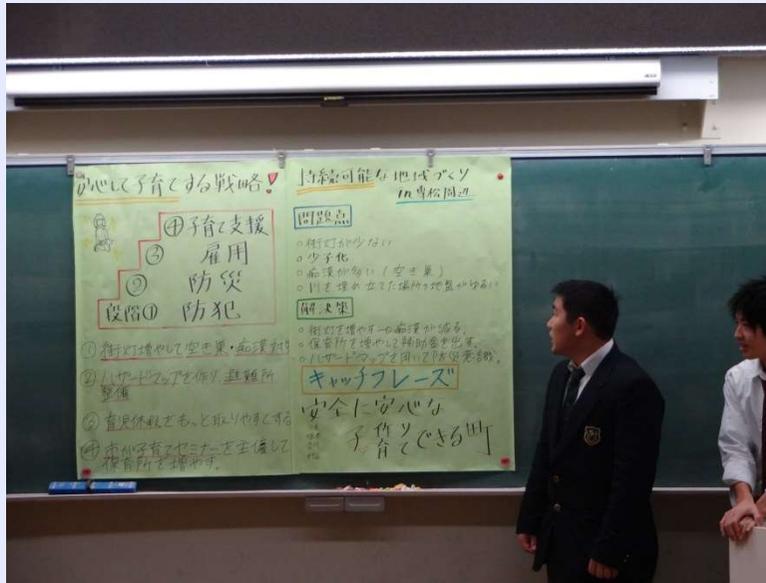
## 6. 今後へ向けての課題

## 地理教育における生活圏学習の今後の課題

- ◆ これまでの「考察力重視」から「構想力重視」へと実践をシフトしていくにあたっての授業時間をどのように確保していくのか？→「地理総合」2単位の壁をどう乗り越えるのか？
- ◆ 課題解決策や地域政策を立案するに当たって、学習者に容易にかつ無責任に提案させて良いものなのか？→実際の政策決定に際しては、様々なステークホルダーの存在があり、政策決定へ向けて様々な立場の意見を踏まえ、合意形成をしていく必要がある(諸課題発生の要因は複雑性を持っており、多様な視点からの解決策と政策提言が必要となってくる)。
- ◆ 公民教育とのすみ分けをどのようにしていくのか？→政策実現へ向けて、経済的、政治的、法律的な側面も無視できない。地理教育でできること、しなければならないことは何か？
- ◆ 身近な地域学習における小・中・高の連携や棲み分けをどのように図っていくのか？→各校種で必要とされる資質・能力(特にコンピテンシーの面)について整理する必要がある。身近な地域学習の一貫性・連続性をどう図るのか？
- ◆ 「学校と社会との連携・協働」という観点から、行政や自治会など地域の担い手との連携をどのようにして進めていくのかという点である。とりわけ、生活圏学習を進めていくにあたって、地域社会、地域住民との連携が、学校との信頼関係構築という観点からも不可欠となる。



# 行政との連携をどう図っていくのか？



3年内部推薦クラスでの松戸市職員をお招きしてのまちづくり学習成果の発表会  
(2014年12月)

# 参考文献

- ◆ 泉貴久(2014):地理教育における社会参加学習の課題—学校周辺地域を対象とした授業実践を手掛かりに—. 中等社会科教育研究, 32, pp.81-99.
- ◆ 泉貴久(2018a):市民的資質の育成を目指した地理教育—貫カリキュラムのあり方. 社会科・地図NEWS LETTER, 6, pp.10-11.
- ◆ 泉貴久(2018b):地理的な見方・考え方と市民性育成—探究プロセスを重視した高等学校「地理総合」の授業実践へ向けて—. 江口勇治監修, 井田仁康・唐木清志・國分麻里・村井大介編『21世紀の教育に求められる「社会的な見方・考え方」』帝国書院, pp.114-123.
- ◆ 泉貴久(2019a):新科目「地理総合」の可能性と課題—高校地理教育の役割について展望する—. 地理教育, 48, pp.6-15.
- ◆ 泉貴久(2019b):システム思考及びマルチスケールの視点を活用した高等学校地理授業の成果と課題—単元「スマートフォンから世界が見える」を通して—. 新地理, 67(1), pp.28-53.
- ◆ 戸井田克己(2002):小・中・高・大学の一貫的見地からみた地理カリキュラム. 地理, 47(8), pp.8-17.
- ◆ 永田成文・金珙辰・泉貴久・福井朋美・藤澤誉文(2017):エネルギーをテーマとした地理ESD授業. 地理, 62(9), pp.100-105.
- ◆ 山口幸男(2002):『社会科地理教育論』古今書院, p.235



ご清聴ありがとうございました。

